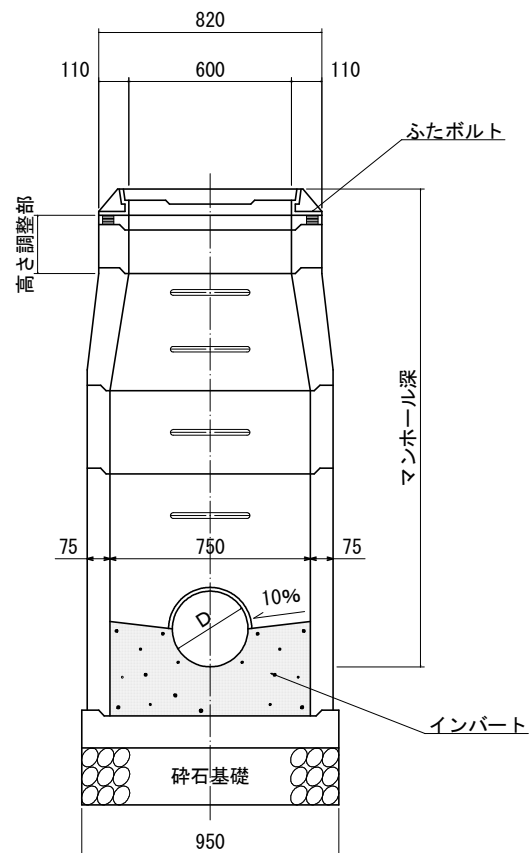
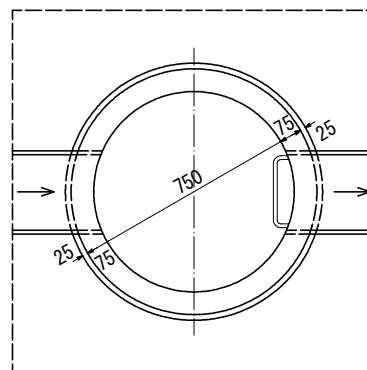


0号マンホール（内径750mm）標準構造図

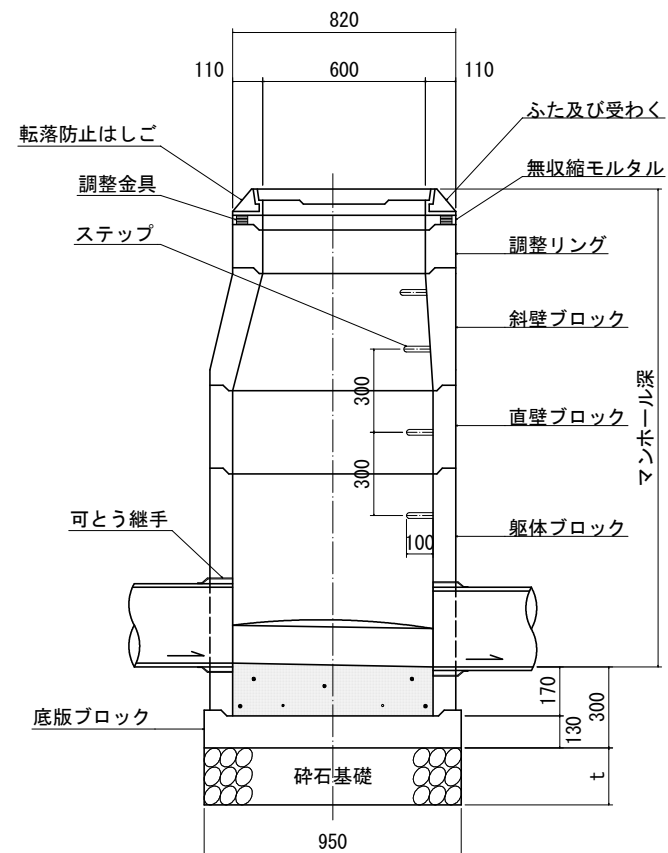
横断面図



平面図



縦断面図



	砕石基礎 (t)
粘性土	200mm
砂質土	200mm
礫質土	0mm

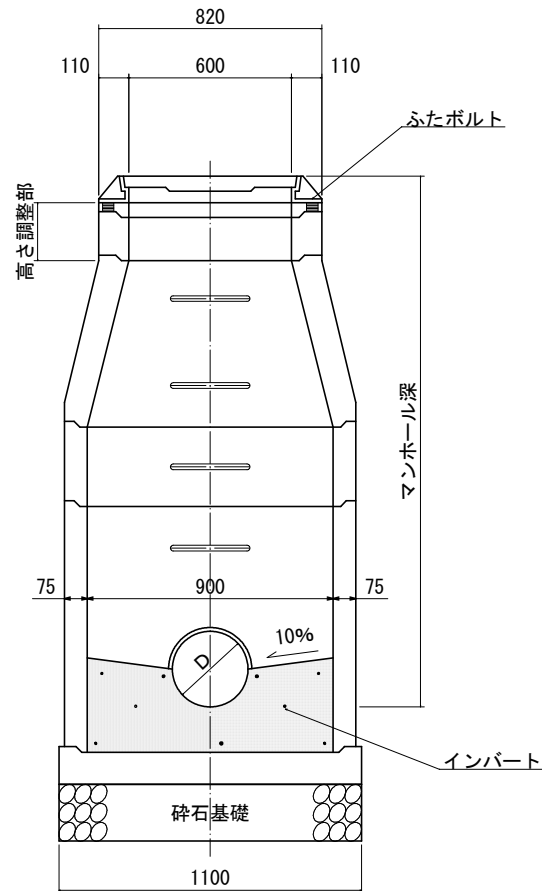
注1) 軟弱地盤の基礎構造については別途考慮すること。

2) 高さ調整部については60mmまでの間とする。

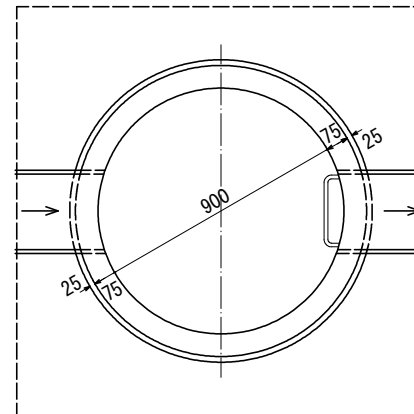
3) 調整リングは100もしくは150を使用する。

1号マンホール（内径900mm）標準構造図

横断面図

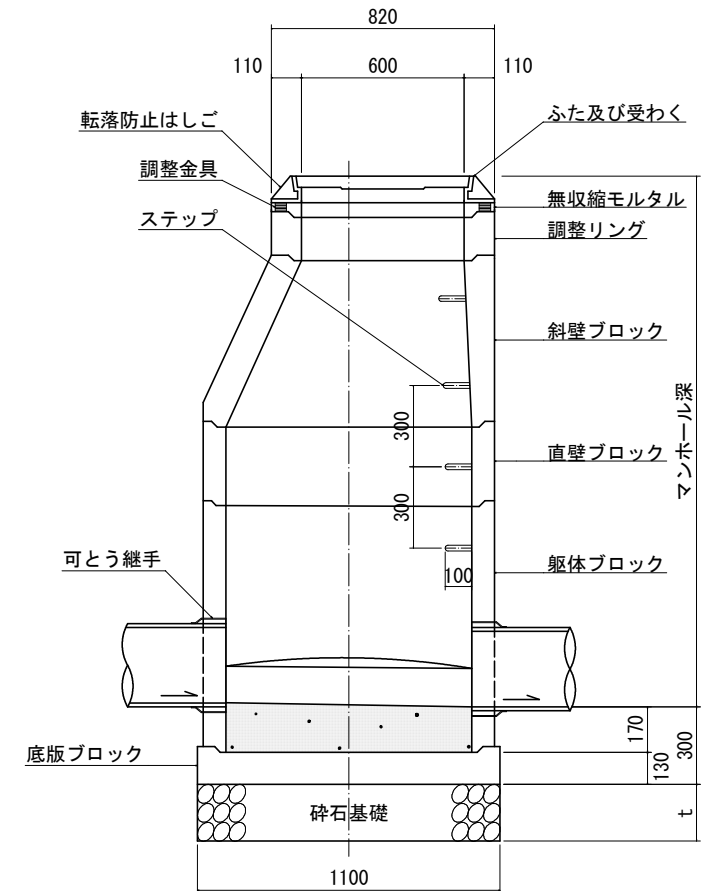


平面図



	砕石基礎 (t)
粘性土	200mm
砂質土	200mm
礫質土	0mm

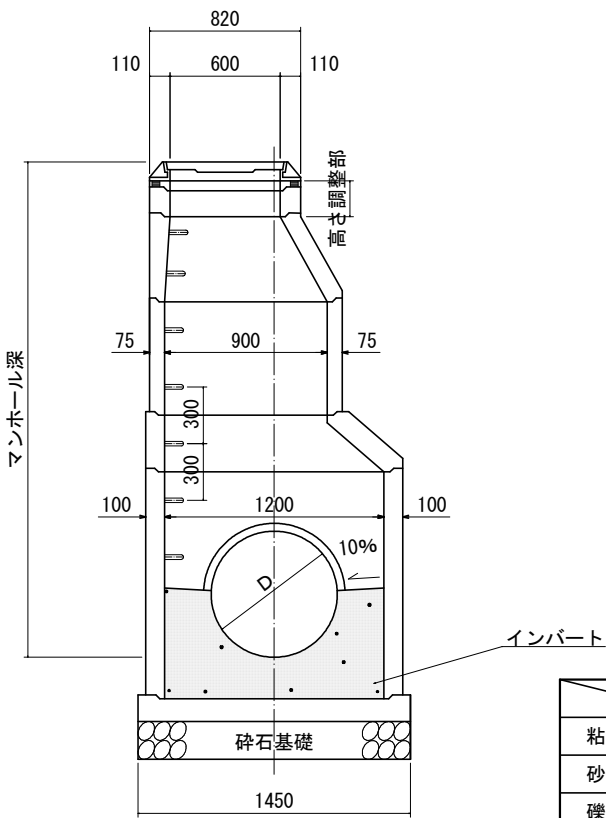
縦断面図



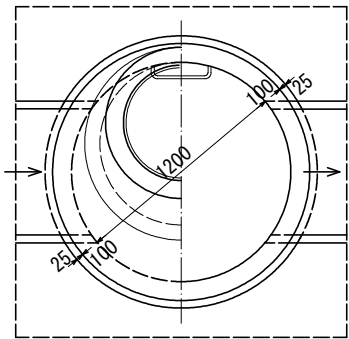
- 注 1) 軟弱地盤の基礎構造については別途考慮すること。
 2) 高さ調整部については60mmまでの間とする。
 3) 調整リングは100もしくは150を使用する。

2号マンホール（内径1200mm）標準構造図

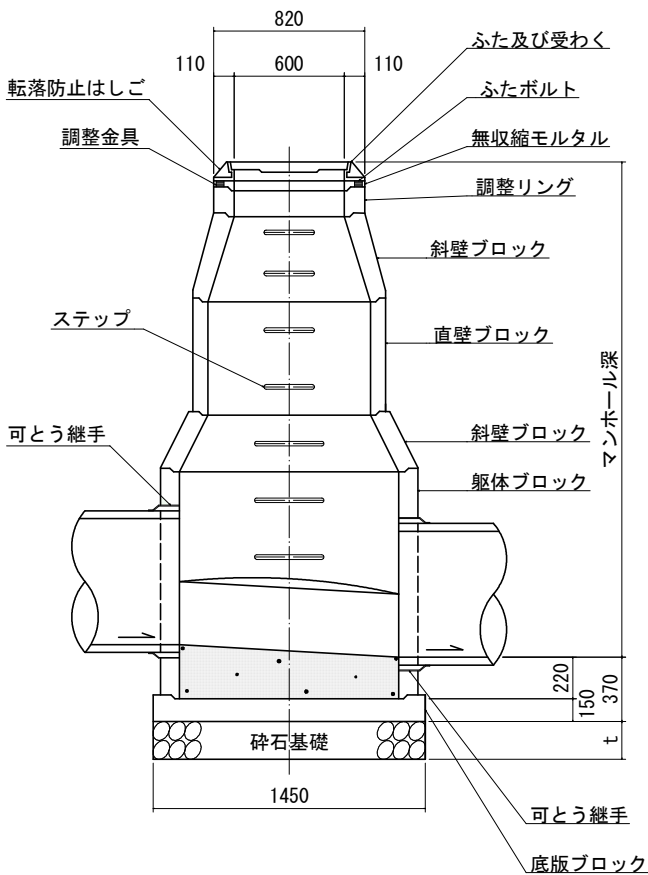
横断面図



平面図



縦断面図

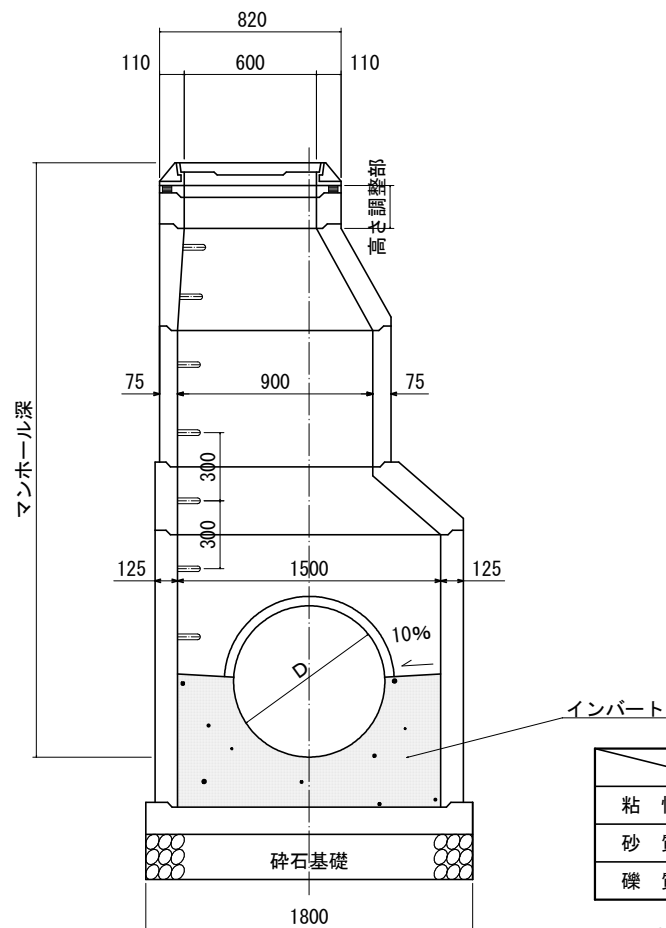


	砕石基礎 (t)
粘性土	200mm
砂質土	200mm
礫質土	0mm

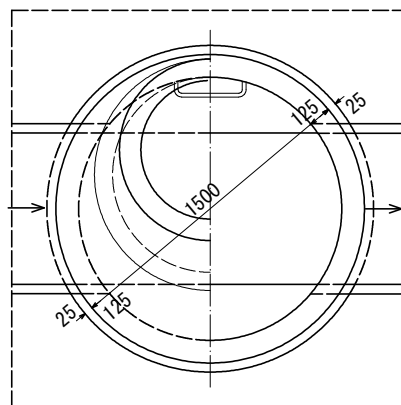
- 注 1) 軟弱地盤の基礎構造については別途考慮すること。
2) 高さ調整部については60mmまでの間とする。
3) 将来流入、サービス管の無い場合。
4) 深さ5m以上のマンホールは深形タイプ(Ⅱ種)を使用する。
5) 流出管径500mm未満の場合のステップの位置は、流出管上にくるものとする。
6) 調整リングは100もしくは150を使用する。
7) マンホール形状については維持管理を考慮して決定する。

3号マンホール（内径1500mm）標準構造図

横断面図



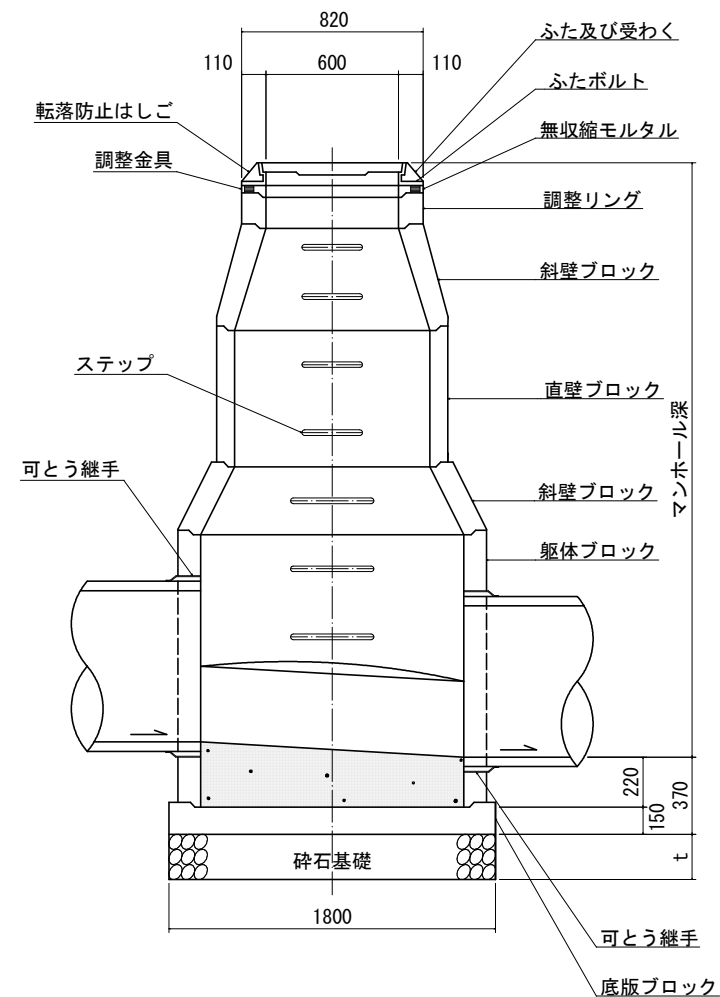
平面図



	砕石基礎 (t)
粘性土	200mm
砂質土	200mm
礫質土	0mm

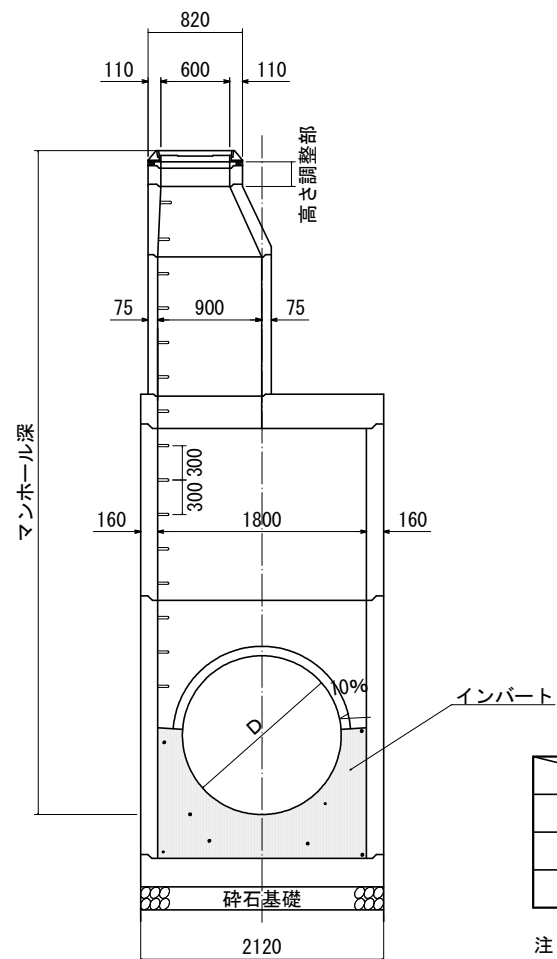
- 注 1) 軟弱地盤の基礎構造については別途考慮すること。
 2) 高さ調整部については40mmから180mmまでの間とする。
 3) 将来流入、サービス管の無い場合。
 4) 深さ5m以上のマンホールは深形タイプ（Ⅱ種）を使用する。
 5) 流出管径500mm未満の場合のステップの位置は、流出管上にくるものとする。
 6) マンホール形状については維持管理を考慮して決定する。

縦断面図

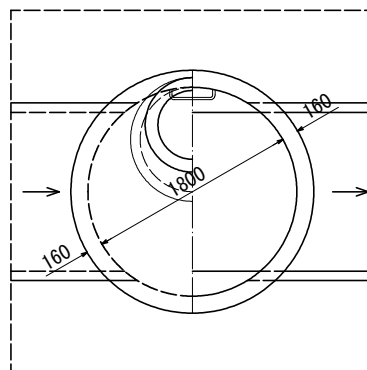


4号マンホール（内径1800mm）標準構造図

横断面図



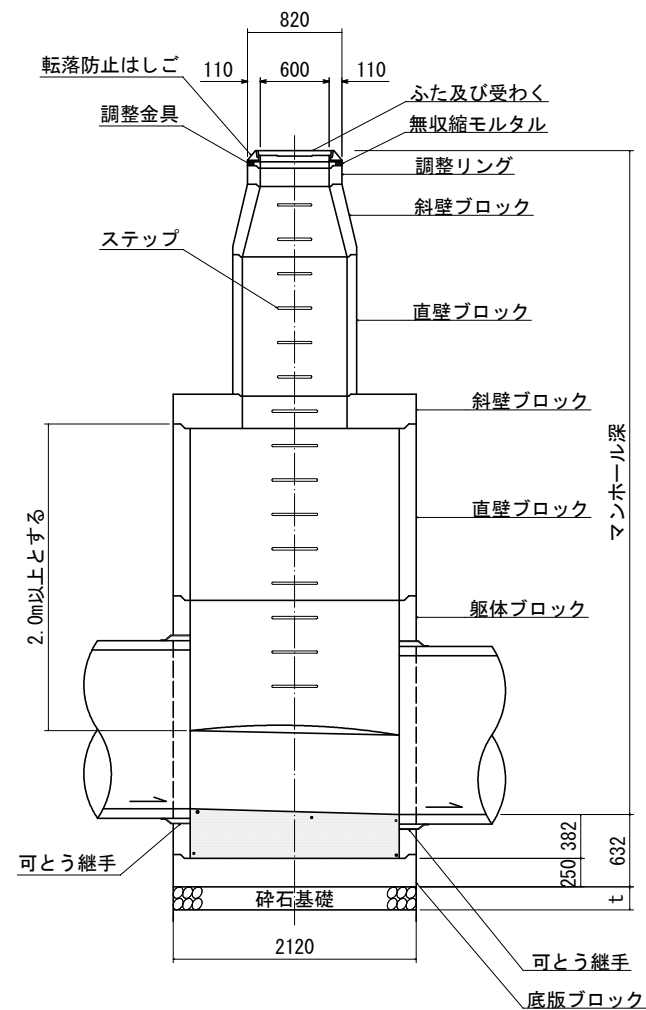
平面図



	砕石基礎 (t)
粘性土	200mm
砂質土	200mm
礫質土	0mm

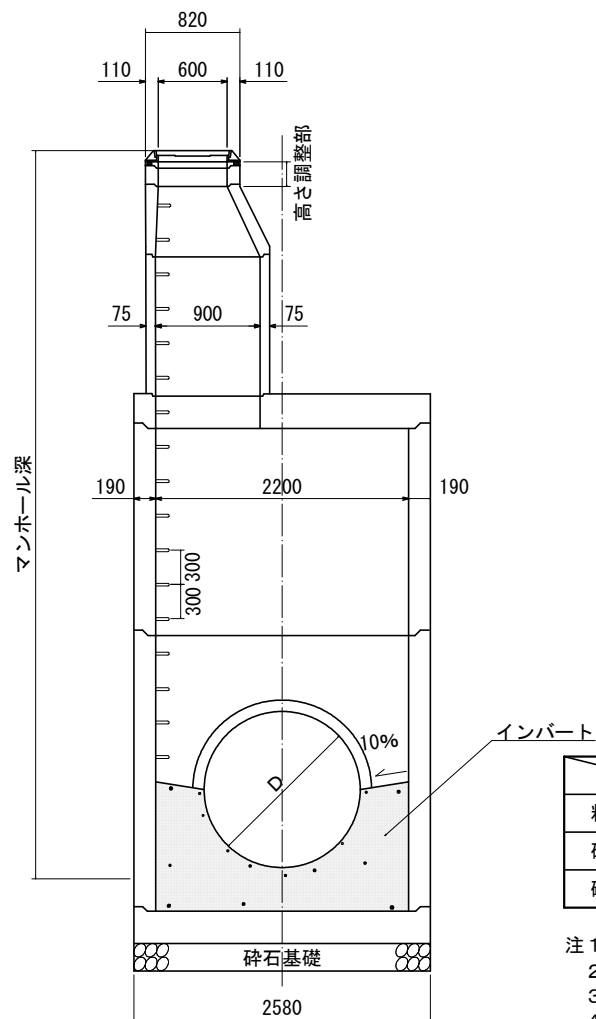
- 注1) 軟弱地盤の基礎構造については別途考慮すること。
 2) 高さ調整部については60mmまでの間とする。
 3) 将来流入、サービス管の無い場合。
 4) 深さ5m以上のマンホールは深形タイプ（Ⅱ種）を使用する。
 5) 調整リングは100もしくは150を使用する。
 6) マンホール形状については維持管理を考慮して決定する。

縦断面図



5号マンホール（内径2200mm）標準構造図

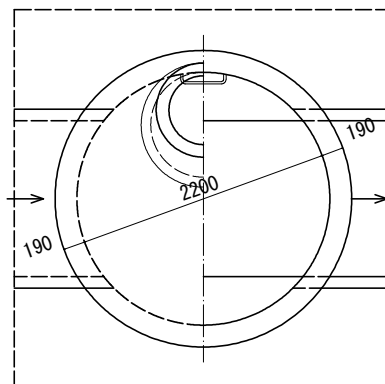
横断面図



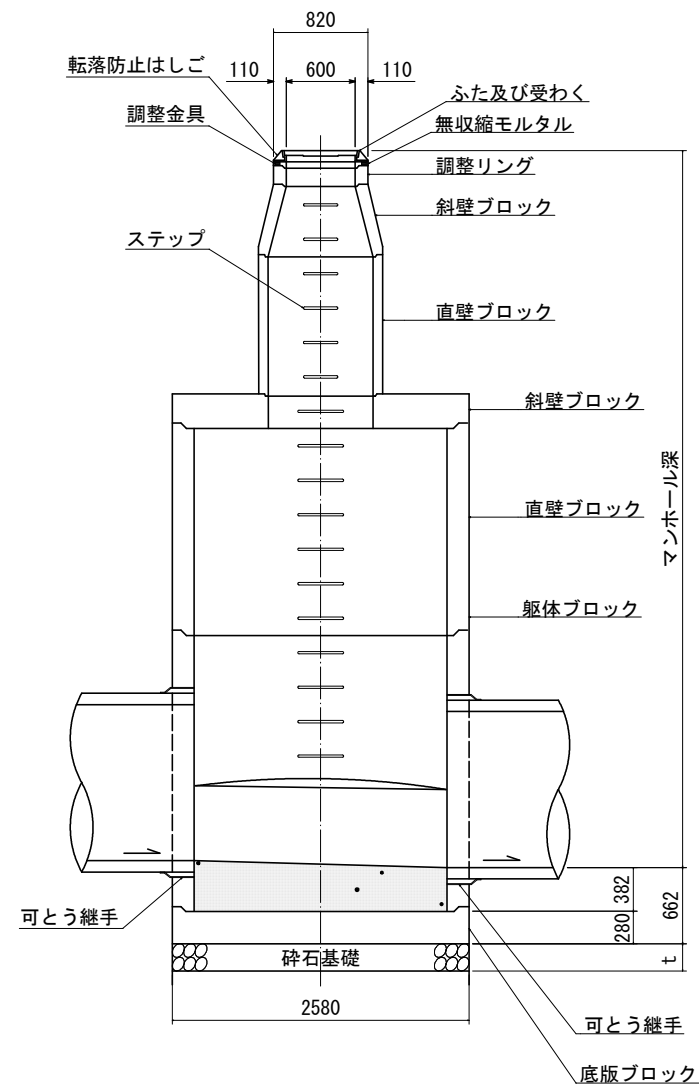
	砕石基礎 (t)
粘性土	200mm
砂質土	200mm
礫質土	0mm

- 注1) 軟弱地盤の基礎構造については別途考慮すること。
 2) 高さ調整部については60mmまでの間とする。
 3) 将来流入、サービス管の無い場合。
 4) 深さ5m以上のマンホールは深形タイプ（Ⅱ種）を使用する。
 5) 調整リングは100もしくは150を使用する。
 6) マンホール形状については維持管理を考慮して決定する。

平面図

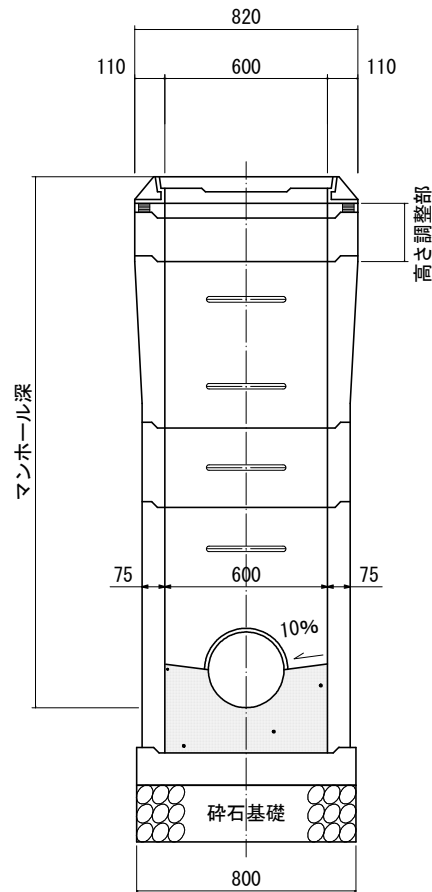


縦断面図

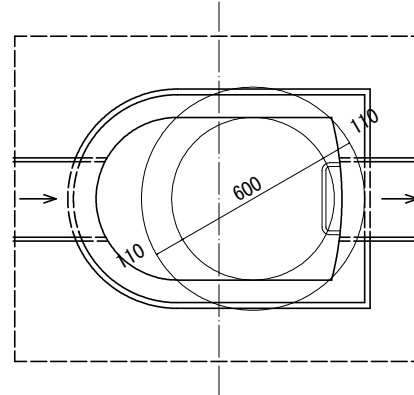


特 1 号マンホール（内径900×600）標準構造図

横断面図

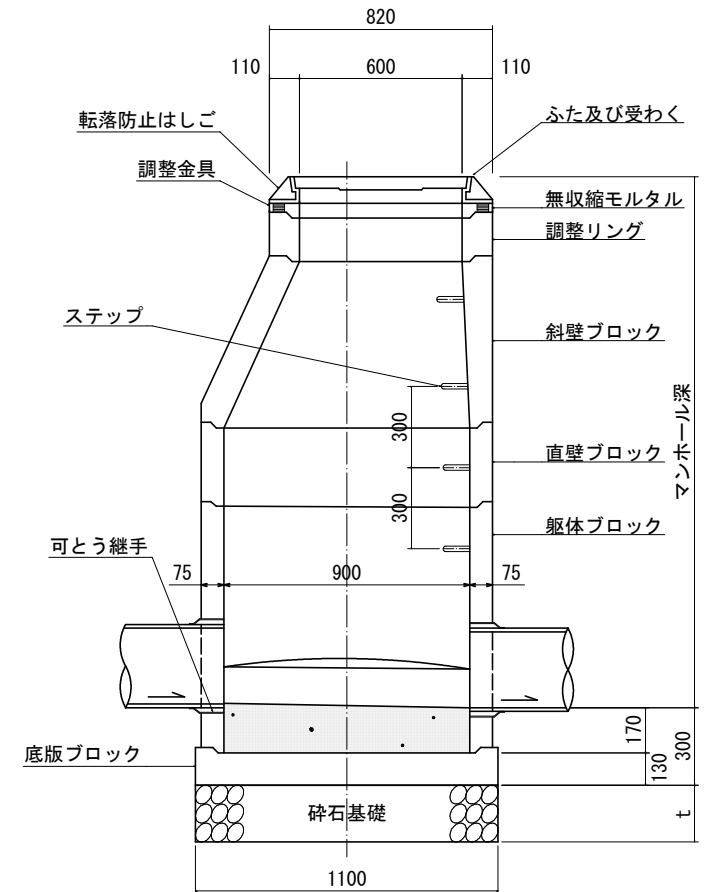


平面図



	砕石基礎 (t)
粘 性 土	200mm
砂 質 土	200mm
礫 質 土	0mm

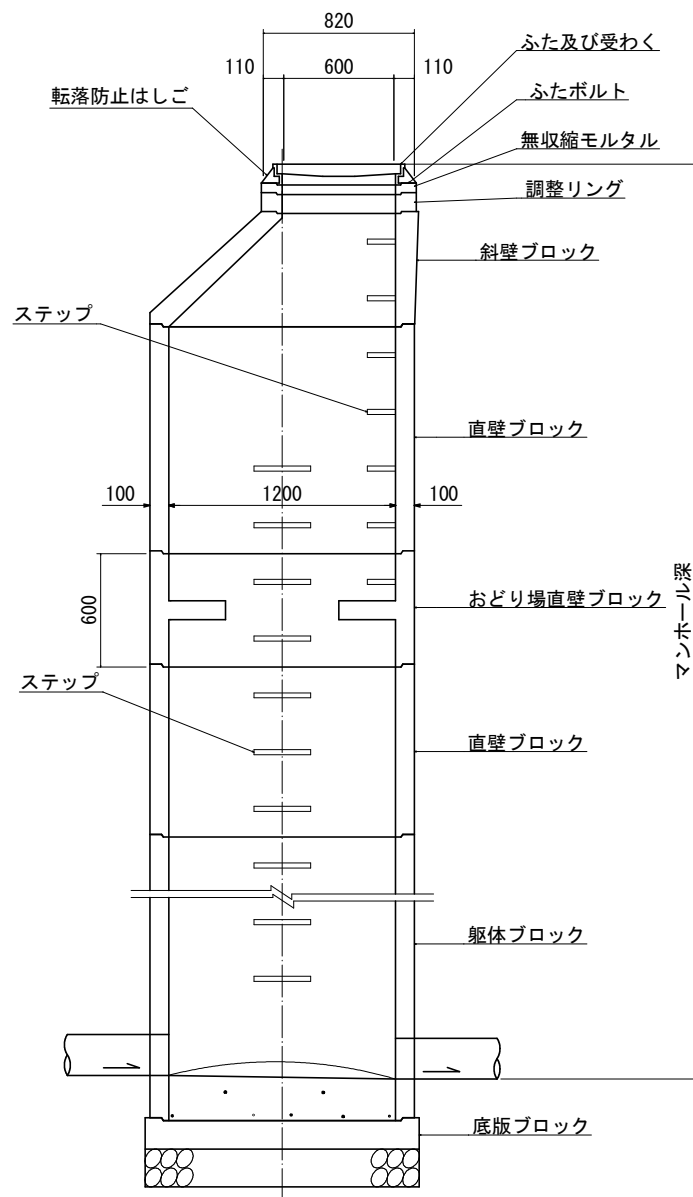
縦断面図



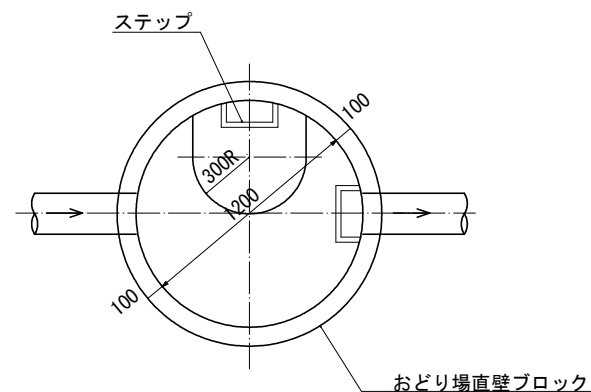
- 注 1) 軟弱地盤の基礎構造については別途考慮すること。
 2) 高さ調整部については60mmまでの間とする。
 3) 調整リングは100もしくは150を使用する。

おどり場直壁構造図（2号タイプ）

断面図



平面図



- 注 1) マンホールの深さが5mを超える場合は、原則として2号マンホール以上の大きさのマンホールを使用し、中間スラブを設置すること。
- 2) 中間スラブの1段当りの高さは、原則として3m以上5m以下とすること。
- 3) 中間スラブを設置するときは、原則として中間スラブ毎に足掛け金物の位置をずらすこと。ただし、やむを得ずこれが不可能な場合は、転落防止中ふたを設置しなければならない。